

## シャーリングマシン使用説明書

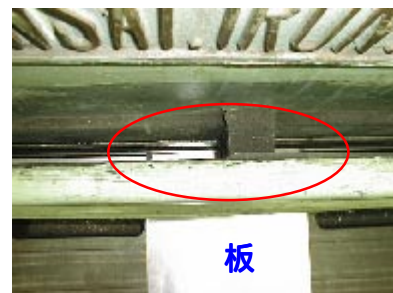
1998年7月  
航空工学教室

シャーリングマシンは、厚さ 1mm から 5mm まで、横の長さ 1210mm までの板状の物を切ることができます。この機械で切ることができる素材は、鉄、アルミ、銅、真鍮です。切ることができない素材は鋼板（ステンレス）、ピアノ線です。無理に切ると刃こぼれするので注意してください。広い板状の物なら問題はありませんが、幅が狭く細長い物は、その長さ方向に切る場合、切断時のねじりの影響で切った後に板が反ることがありますので、反って困る物はコンタマシンを使用してください。



### 使用方法と注意点

1. シャーリングマシンの台の上を整理整頓し、必要な物以外は置かないようする。
2. シャーリングマシンの上から覗いて、板の「けがき」をしたラインと、シャーリングマシンの刃先のラインとを合わせる。



3. ラインを刃先に合わせた時、シャーリングマシンの「押さえ」によって、板を押さえることができるかどうか確認する。



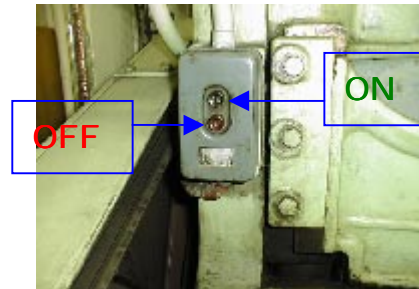
注) 板が「押さえ」と「押さえ」の間隔より短い時や、刃先から「押さえ」まで届かない時は、職員に切断をお願いしてください。

4.シャーリングマシンの裏へ回って、刃が降りてくる所に、前に使った人の切り残しがあれば、所定の捨て場に捨てる。

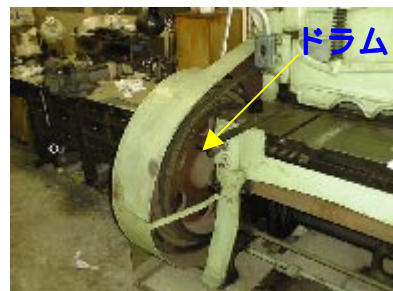


注) 切り残しがある状態で切ると、故障の原因になる。

5.シャーリングマシンのスイッチをオンにして、左隣にあるドラムを回転させる。静止しているドラムを回し始めるときに、ベルトが滑らないように1,2秒オンにしたらすぐオフにし、もう一度、1,2秒オンにしたらすぐオフにして少し慣性をつけてやって、ある程度ドラムが回転したら、あとはずっとオンにしておく。



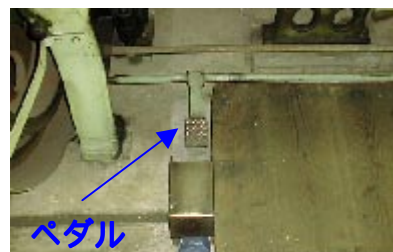
注) スイッチをオンにする前に、もう一度、板の上や「押さえ」や刃が降りて来る部分に、定規やノギス等を置き忘れていないかどうか確認する。



6.ドラムが一定速度で回転するようになったら、足元にあるペダルカバーに足を差し込んで手前へずらす。



注) もし、この段階で「けがき」のラインが刃先のラインにあっているかどうか確認する時は、必ず、ペダルカバーをペダルにかぶせてから確



認する。

7. 板を手で押さえずに台から離れてペダルをしっかり踏み込むと、刃が降りて来て板が切断される。

注) 板が長くて二人でラインを合わせた場合、ペダルを踏む人が、もう一人に合図を送って、二人とも台から離れたことを確認してから、ペダルを踏む。

注) 絶対に、刃先や「押さえ」の降りてくるところに、手を置かないようにする。また、回転中のドラムにはできるだけ近づかないようにする。



8. 続けて別の板を切る場合には、必ずペダルカバーをかぶせてから、次の板の「けがき」のラインを合わせる。

9. 全ての板を切り終わったら、ペダルカバーをかぶせ、スイッチをオフにする。

注) ドラムはしばらく回っているが、自然に停止するので、そのままにしておいて構わない。

注) スイッチをオンにした状態で、試しにペダルを空踏みしても構わないが、スイッチをオフにした状態で、ドラムが惰性で回っている時やドラムが停止している時にペダルを空踏みすると降りた刃があがらなくなってしまうので、ス

**イッチオフ時の空踏みをしてはいけない。**

10. 作業が終了したら、台の上を整理整頓する。

11. シャーリングマシンの裏へ回って、切り残しを所定の捨て場へ持っていく。